

平成 26 年度事業報告

平成 26 年度は定款 4 条に定められた事業を下記の通り実施いたしました。

本協会が実施している助成事業（演劇の関係者への助成金交付、海外研修者に対する助成、脚本家養成に対する助成）、普及事業（半額観劇会、学生対象の演劇教室、「高校生劇評グランプリ」への協賛）及び調査事業等の公的事業活動は充実し、演劇の振興と普及を図るという事業目的は達成いたしました。

I 助成事業

（1）演劇関係者への助成金交付

演劇興行および演劇製作に寄与した団体または個人の功績をたたえ、表彰する助成金交付は、委員会の答申を受け、常務理事における審議の結果、本年度は下記の 3 氏と 1 団体が承認されました。表彰式は平成 27 年 3 月 17 日（火）午後 2 時から、東京プリンスホテルに理事、監事、委員出席のもと、大谷会長から各表彰者に助成金と賞状を贈呈いたしました。

（受賞者と授賞理由）

① 酒井 喜一郎 殿

プロデューサーとして、担当された作品すべてが題材の新鮮さやクオリティの高さにおいて顕著な業績を上げたばかりではなく、出演者の新しい人材発掘を続ける取り組みは、演出家や脚本家などのスタッフにもおよび、先の時代を的確に捉える先見性により、観客のニーズに応える幅広いジャンルの演劇作品を創造されてきました。

これまでの長年の功績を讃え、推薦するものです。

② 内藤 博司 殿

昭和 52 年にショウビズスタジオに入社されて以来、演劇の音響効果一筋に歌舞伎から新派、ミュージカルに至るまで、様々なジャンルで演目に最も相応しい音響効果を作り上げてこられました。作品や俳優の機微を音で表現し、魅力を最大限に引き出す優れたプランナーであると同時に後継者の育成にも注力され、大きな功績を残されてきました。

ここにその功績を讃え、推薦するものです。

③ 小田島 恒志 殿

数多くの翻訳活動の中でも、演劇の現場での戯曲翻訳に精力的に取り組まれてきました。優れた作品を国内に紹介する活動を意欲的に続けられ、異文化で書かれた脚本の面白さをそのままに、日本人のメンタリティに合わせて観客に伝えるご努力、俳優の個性を引き出すために足繁く赴いて作品を練り上げる姿勢は日本演劇界に大きな足跡を残してこられました。

ここにこれまでの功績を讃え、今後の一層の活躍を願って推薦するものです。

④ 劇団新派 文芸部 殿

明治 21 年に始まった新派の伝統を受け継ぎ、上演作品の創作から補綴演出まで幅広く手掛けられてこられました。古典作品における古き良き日本語の美しさや人情の機微を現代に継承しながら、知られざる新派の名作を復活上演されるなど、伝統の継承のみならず現代の感性に応じた新演出や新作上演に取り組まれたことにより、新派や演劇界全体の発展に寄与されました。

ここにその功績を讃え、推薦するものです。

(2) 海外研修への助成

本年度の海外研修は、昨年に引き続き研修志望者を募り、各自が日程、行動を事由に設定し、滞在中は各自が責任行動する方法で実施いたしました。協会は往復の航空運賃、宿泊費、観劇チケット代金を助成いたしました。

本年はニューヨークに 12 名、ロンドンに 4 名の計 16 名が参加いたしました。今年度で 25 年目となり、研修参加者の延べ人数は 473 名となりました。

(3) 新人脚本家養成のための助成

本年度は、「第 7 回脚本募集」の審査を実施いたしました。歌舞伎部門 16 作品、時代劇部門 16 作品、現代劇部門 21 作品、ミュージカル部門 8 作品の合計 61 作品の応募作品に対し、第 1 次から第 4 次審査を行いました。平成 27 年 4 月に入選作の決定及び発表を、平成 27 年 6 月に入選作の表彰式を行います。

(賞金は、最優秀作 100 万円、優秀作 50 万円、佳作 20 万円)

また、今年度も引き続き「脚本家養成講座」を開講し、「初心者コース」5 名、「中級コース」13 名、「マスターコース」8 名の計 26 名が受講いたしました。

通常の講義以外に、外部より講師を招いて特別講義を 1 回実施いたしました。

演劇の基盤を広げるためには優秀な脚本が求められます。演劇の脚本は一朝一夕に生まれるものではなく、長期的な養成が必要であります。継続して講座を維持してまいります。

II. 普及事業

(1) 半額観劇会

東京都、公益財団法人 東京都歴史文化財団、公益財団法人 都民劇場、大阪府、独立行政法人 日本芸術文化振興会、公益財団法人 名古屋市文化振興財団、公益財団法人 福岡市文化芸術振興財団と本協会とで共催している半額観劇会は、低価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として、都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げております。

本年度は、加盟 11 劇場と 1 社の協力を得て、東京地区 4 回、大阪地区 6 回、名古屋地区 3 回、福岡地区 8 回の合計 21 回実施いたしました。

東京地区	30,394 人	188,683,700 円
大阪地区	62,692 人	353,162,600 円
名古屋地区	6,083 人	36,361,650 円
<u>福岡地区</u>	<u>10,801 人</u>	<u>80,318,250 円</u>
合計	109,970 人	658,526,200 円

なお、平成 26 年 4 月、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人 都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興財団、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団と本協会とは、普及事業に関わる協定書に調印いたしました。また、公益財団法人名古屋市文化振興財団、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団と本協会とは、普及事業に関わる取り扱い手数料について覚書に調印いたしました。

(2) 学生対象の演劇教室

加盟劇場の観劇と組合せ、学生を対象とした演劇教室を開催し、若年層へ演劇の普及を行いました。

「学生のための歌舞伎教室」を、平成 26 年 6 月に博多座（参加者 121 名）、平成 27 年 3 月に京都南座（参加者 115 名）にて行いました。

「学生のためのミュージカル教室」を、平成 26 年 5 月に帝国劇場（参加者 140 名）、8 月に博多座（参加者 130 名）にて行いました。

(3) 高校生劇評グランプリへの協賛

平成 25 年度より毎年、公益社団法人国際演劇協会日本センター主催の「高校生劇評グランプリ」に協賛し、高校生の演劇への関心を高める一助となっています。

Ⅲ. 会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るため、会報 46 号、47 号を発行いたしました。会報は会員、賛助会員、所轄官庁、関係団体、演劇評論家、演劇記者、業界紙、舞台関係者等々に配布いたしました。

Ⅳ. 調査事業

ロンドン劇場協会が作成した加盟 51 劇場で実施された一年を通じたボックスオフィスデータの調査結果とロンドン劇場協会提携会員の 12 の準会員劇場の主要事項を内容としている「Box Office Data Report 2012」を入手し、演劇関係者の参考資料として翻訳、編集しました。

また、ぴあ株式会社が事業委託を受けて作成する「ライブエンターテインメント市場調査報告書」の調査・編集に協力しました。その報告書を入手し、加盟劇場と情報を共有いたしました。

報告事項

1. 一般社団法人 日本音楽著作権協会（JASRAC）との音楽著作権料に関する交渉を継続して行う。
2. 一般社団法人 700MHz 利用促進協会とワイアレスマイクの周波数帯域移行問題の交渉を継続して行う。
3. 平成 26 年 4 月、劇場等演出空間運用基準協議会より発行の「舞台技術共通基礎—公演に携わるすべての人々に」の編集・作成に協力し、同書籍を加盟劇場に配布。
4. 理事の異動
平成 26 年 6 月 理事・糟谷治男氏就任
平成 27 年 3 月 理事・大塚孝一氏退任、理事・岡田至氏就任
平成 27 年 3 月 理事・小山観翁氏退任
5. 委員の異動
平成 26 年 7 月 南座支配人・藤田孝氏就任、国越稔弘氏退任。
平成 27 年 2 月 博多座支配人・山本哲郎氏就任、原田貞之氏退任。
6. 委員会の開催
協会加盟劇場の支配人を委員とする委員会は、協会の事業活動方針を審議するため、平成 26 年度は 6 月、9 月、11 月、3 月の 4 回開催いたしました。